

出題分析		
試験時間 100 分	配点 200 点*	大問数 3 題
分量 (昨年比較) [ 減少 <span style="border: 1px solid black;">同程度</span> 増加 ]		難易度変化 (昨年比較) [ 易化 <span style="border: 1px solid black;">同程度</span> 難化 ]
<b>【概評】</b> 同志社大学の英語の大問構成にはここ数年大きな変化は見られない。大問Ⅰ・Ⅱは長文読解で英文の分量はどちらも3ページ程度、設問としては、空所補充、同義選択、内容一致などがあり、下線部和訳がⅠ・Ⅱどちらかにある。大問Ⅲは会話文で、空所補充と1~2行程度の和文英訳が定番である。大問Ⅰ~Ⅲを通じて、英文自体および設問の難度は標準的であるが、英文のボリュームからすると、精度だけでなく相当のスピードが要求される。		

※理工学部は配点を100点満点に換算する。

設問別講評			
問題	出題分野・テーマ	設問内容・解答のポイント	難易度
I	長文読解 「顔が与える第一印象を左右するものは何か」 ○ 語数：829 語 (昨年) 943 語	人間の顔の造作やそこに表れるさまざまな表情のうち、他人に与える第一印象を左右するものは何かを論じた文章。本文中に似通った綴りの単語や類似表現が複数登場するので、それぞれが指すものを把握し区別する必要がある。内容一致Eの選択肢7の <i>unintentional</i> は、第7段落6行目の <i>not sending any emotional signals</i> を言い換えたものと考えられる。	標準
II	長文読解 「黒板の魔法」 ○ 語数：1046 語 (昨年) 837 語	なぜ数学者や物理学者が好んで黒板を使うのかを述べた文章。Cの内容把握の(エ) <i>weapons of mass distraction</i> は、 <i>distraction</i> の言い換えが3の <i>disturbing one's focus</i> になる。ちなみに、この語句は、 <i>weapons of mass destruction</i> 「大量破壊兵器」をもじったものである。Fの和訳では、 <i>some trace usually remains of what was written there before</i> の <i>of what</i> 以下が <i>some trace</i> にかかることに気づきたい。主部が長くなるので間に <i>usually remains</i> が割り込んだ形である。	標準

設問別講評			
III	会話文 「締切前のプレッシャーに耐えられるか？」 ○ 語数：538 語 (昨年) 518 語	提出物にいつ取り組むかという点で立場の違う 2 人の大学生の会話。A の空所補充では、(d) は、直後の Casey の「ゆっくりと見直しの時間を取りたい」「早く仕上げたら気分が落ち着く」といった発言と、Jessie の立場がこれとは対照的であることを踏まえて判断する。(g) の選択肢 1 の could use は「～がほしい」の意味。B の英訳の「直前の」は、解答例では分詞の approaching で表した。	標準

設問構成 (設問数・形式・内容)												
大問番号	設問数	選択式						記述式				
		空所補充	同義選択	内容把握	語句整序	内容一致	その他	和訳	英訳	自由英作	内容(理由)説明	その他
I	5	4	7	4	1	3/8						
II	6	3	8	4	1	3/8		1				
III	2	8							1			

※「選択式」および「記述式」の欄の数値は、各設問内の小問数を表す。ただし、内容一致については、正答数/選択肢数を表している。

合格のための学習法
<p>同志社大学の比較的長い英文を読み解くには、文法理解に裏打ちされた強靱な読解力を身につけることが重要になる。そのためには、1 学期の間に基本文法をしっかり理解しておこう。それと同時に、辞書も活用しながらじっくり英文を読む訓練を積んでおきたい。基本語彙も 1 学期の間に暗記し終えることが望ましい。夏以降は、実際に過去に出題された問題を使って、読解練習を行っていこう。その際、スピードを意識するのではなく、意味を正確にとることを心がけてほしい。長い英文を深く意味を考えながら読む訓練を続けていけば、スピードは後から自然についてくる。じっくり腰を据えて取り組むことが重要だ。</p>